

南アルプスの山岳自然を貫くりニア新幹線 国民の声を無視する計画の凍結を求めるアピール

本年6月、南アルプスはユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録されました。3千メートルが連座する山々が12座もあり、重量感あふれる景観と、標高3120.1メートルの赤石岳に見られるチャート岩は100万年前の太古海底からの隆起により押し上げられたものであり、地形地質は地球の歴史的価値を持っています。また、キタダケソウ、ハクサンイチゲ、オダマキ、ツガザクラ等のお花畑と固有種の高山植物の宝庫であり、多様な生態系が広がっているところです。まさに世界遺産に相応した価値を有しています。

リニア新幹線は、13年後に、たかが1時間の時間短縮のためだけにこのような南アルプスの山々の真下に10.7キロメートルものトンネルを掘り、その代償として、希少な遺産価値が侵され、水源の枯渇により水生生物や動植物などにも影響を与え、貴重な生物多様性を侵すとともに、人間の生活権までもが脅かされることにもなります。水は生物の源であり、一度破壊された生態系や自然景観は、おいそれと元に戻すことはできません。

南アルプスは、現在も年間4ミリメートルの隆起を続けており、糸魚川―静岡構造線等の巨大活断層をトンネルで幾つも横切る計画は、専門家でもどのようなことが起こり得るか想像がつかないと表明しており、無謀な計画といわざるを得ません。著名な山岳写真家や生物学者などからも、無謀でずさんな計画に対し懸念を表明しています。リニア計画の稼働電力のために原発の再稼働などはとんでもないことです。

私たち勤労者山岳連盟と会員は、「登山文化の継承発展と、山岳自然と登山者との新しい共存」をめざす労山自然保護憲章を掲げ環境を守る観点から自然環境を破壊し阻害するような大規模開発・計画は、中止を求めてきました。リニア新幹線計画は拙速に行わずに凍結し、南アルプスの大自然の環境保全の国民的議論を実施することが必要です。

第17回全国登山者自然保護集会 in 静岡に集った、山を愛し自然を愛する岳人は、国民の声を無視したままの南アルプスの大自然を破壊するリニア中央新幹線計画に対しNO！の意志を表明するものです。

2014年10月12日
第17回全国登山者自然保護集会